

日記

氏名 稲葉仁大 大正六年九月二十一日生

本籍 岐阜県郡上郡牛道村陰地五三五番地の三

歩兵上等兵

昭和14年7月19日(水)

天候・曇り

衛兵勤務。明方の眠い事、一通りでない。司令白田軍曹。

妹と故郷の母に便り出す。滝下君にも。

腹具合が少し悪い為、食事進まず。午后読書、常識。

7月20日(木)

起床、○時馬運動。曇り勝の晴天。

九時半より分隊教練。西門付近堤防上にて午前、陣営具検査。

午後、被服検査準備。

三時ヨリ中隊長学科、聖戦ノ意義に就キ。

夕方○○ノ検査。

7月21日(金)

天候・晴れ、風強し。

朝、馬動。後手入。本日師団○理○○巡視ノタメ被服検査実施サル。

午后二時、朝より腹具合悪ルク特急列車でコマル。

午後診断受ケル。練兵休二日、尽、被食セズトノ緊○宣告。

酒保(※1)の側にて火事あり七時頃、中隊非常招集にて消火に出動す。

自分は見物に行く。支那民衆の呑氣さにはあきれる。○で火事と言ふのに平然たるもの。

各自の業務に励んでいる。それとも皇軍を信頼しているのか？

7月22日(土)

天候・晴れ。

朝炊事に行き粥(?)食ヲ作る。演習部隊は八時出発す。五里脾。

午前十時、兵団長閣下の慰霊祭のため南京に向って黙祈を捧ぐ。
午后も寝る。病気時は故郷の事、過去の事が偲ばれてならぬ。
母上、姉上に心より感謝せずには居られぬ。こんな事追想するも淋しい
からかな・・・。

夜、俸給を戴く。

7月23日(日)

気候・晴れ後曇り、夜る雨

起床、○時気分良好。点呼後、皆使役等に行き病人の俺一人、床にらみ。
晝前何するとなく寝て過す。炊事場に慰問袋が到着している。嬉しいな
・・・・。

午前中皆演習に出場。晝食まで粥食す。十二半外出者整列と共に待望の
慰問袋分配。

クジによれば幸運にも俺には一番大きなの・・・。

開けてビックリ玉手箱、中から出てくる出てくる古新聞。

でもとてもインテリ的な手紙あり。免○銃後(※2)の人の心には感
謝にたへぬ。

夜る雨となる。

※1…兵営内や軍艦内で、日用品・飲食物などを扱う売店

※2…戦場における銃の後ろ、すなわち前線に対して、直接の戦場では
ない後方という意味で用いられる

昭和14年8月9日

天候・晴れ

師団長閣下、小丹陽巡視のため中隊より警備兵出る。補充兵も一部の者
が参加。

自分は午前中兵器の手入。午后、補充兵兵器手入監視。

8月10日

天候・晴れ

連隊兵器検査。朝九時迄各自の兵器手入。十時より配列。十二時半より検査。

想たより平凡に終る。家に便り出す。

夜る十二時、河南巡警哨にて二十数発の銃声。中隊非常呼集。自分は佐々木曹長に従行して龍山橋迄で敵を追走す。巡警一名戦死す。中隊に帰隊したのは午前五時半であった。

8月11日（金）

天候・晴れ

昨夜の斥候の疲れにて晝前ぐっすり眠る。

午後2時より西門付近に於て歩哨教育。相変わらず焼け付く様な暑さだ。

8月30日（水）

天候・曇

朝、補充兵 小銃射撃ノ予定ナレドモ雨天ノタメ取止。

普通 分解 ○○実施。

午後、五里牌ニテ小銃射撃。夕食後、短剣術。志気旺盛。

8月31日（木）

天候・晴れ

七時、高淳方面討伐隊出動ス。

自分ハ教育ノタメ出動出来ズ。九時ヨリ就戴御下教練。午後も同ジ。

二、三日前ヨリ急ニ涼シクナッタ。

9月1日（金）

天候・晴れ

午前、陣地侵入。午後も同ジ。

皆んな張り切ってやる。

夕方、白田班長殿と共に會食。補充兵一同と演藝會一時間。
又、蓄音機のメロデーに夕を面白くす。す。

9月2日(土)

天候・晴れ

八時より陣地侵入。假設的に出る。

午后、班内実施。三時頃より一時間後眠す。

七時より問〇古分解搬送にて

太平の町を騎兵にて一周。

原〇一郎君、討伐より帰り、班内にて二人で茶話會する。
ビールの味、少しは分る様になった。幸か不幸か。
でも戦地での唯一の気晴に結構なものなり。

9月3日(日)

天候・晴れ

朝より休養、晝より外出。酒保〇〇方面へ散策に出る。相変わらず暑し。

夕、短剣術。

9月4日(月)

天候・晴れ

午前中、射撃予行演習、故障排除。

午后、飛行機射撃、一時間半。

三時半より五時迄で休憩。

夜、体操。

9月5日(火)

天候・晴れ

八時整列、分隊戦斗教練。

クリーク地帯にて金桂蘭塔まで行く。

非常に暑くなる。午后三時まで午睡、三時より馬ノ学科。

馬手入。四年兵除隊も近日とのこと。第二次補充兵始メテ警戒兵ニ立ツ。

9月6日(水)

気候・晴れ

朝〇〇教育。警〇動作。

野戦築城、〇〇ノ方法等。

午後三時より連隊本部〇本少尉

馬管理法に就きて講話あり約三時間。

三時半より警戒兵に立つ。書簡到着、ハガキ五本、手紙二本。

9月7日(木)

天候・雨

四時半、非常呼集にて五里脾方面へ夜間行軍。

並に陣地侵入。八時帰營す。午前中休養。ぐっすり眠る。

午後二時より射撃予行演習。

問〇古に夜間警立つ。〇〇。

9月8日(金)

天候・晴れ

午前中射撃予行演習ノタメ假設敵ニテ過ス。

午後一時中隊検問ノ假設敵

空砲二連使用。夜ル一線警戒兵ニ。

9月9日(土)

天候・晴れ

八時ヨリ五里脾ニ於テ補充兵第一次基本射撃、成績良好。

帰隊ハ十二時。二時ヨリ舎前ノクリークニテ水泳演習。

水モ大分冷タクナツテ来タ。

魚取ガ目的デアッタレ共、要領ヲ得ズ。

故郷ノ姉ヨリ便リアリ。又、犬山ノ永井君カラ便リアリ。

彼モ女学校二年生トカ。未ダ若キ乙娘ダ。

明日ハ日曜ダカラ便リデモ書イテ過ソウ。

夕方、問○古ニ基本体操号令調正。

一ヶ月程前ニ注文シタ部隊ノ写真、配布サル。

吉田君ニ写シテモラッタ写真、中々上出来ダ。

故郷ノ母ニ送ロウ。

明日、御賜ノ煙草ガ渡ルソウダ。軍人ノミノ特典。

地方ニ於テハ望ンデモ出来得ナイ光景ダ。

四年兵除隊モ目前ニ近ズキ毎日會食宴會ガ各所ニ

開カレテイル。彼等モ四年ト謂ウ長ク年月ヲ軍隊生活デ過シ、

今元氣デ凱旋スルノダカラ、小鳥ガ籠カラ飛ビ立ツ思イダロウ。

9月10日(日)

天候・晴れ

今日は日曜。朝食前、久方ぶりに馬運動に出る。

午前十時より中隊事務室前に於て御賜の煙草受領。

有難さに一同感激無量。誓って一層奮斗努力せねばならぬ。

午後、外出が許可さる。自分は外出を止め姉に便り書く。

此の間の写真同封。

午後三時半、中公司方面に於て火事。

中隊では○○呼集。便り書くのも忘れ飛んで出る。

数十軒炎上す。南風にて一時は手の下シ様無シ。でも五時半鎮火す。

9月11日(月)

天候・晴れ

午前八時整列。行軍兼追撃戦。

五里脾○地より○水河渡河、さらにクリークを渡り

河南ー太平の○路を取り一時帰隊す。

三時半迄休養。三時半より眼鏡照準。

昨日より左足ヒザが何が原因か分からぬがはれて
痛みを感じず。夕方衛生兵に頼みエキホス(※3)を塗る。
問○古あれども休む。未だ相変らず暑い。

※3…塩野義商店では昭和二年消炎、鎮痛の巴布(はつぶ)剤をエキシ
カと名付けて発売した。これに対して、武田長兵衛商店はやがてホスピ
ンを発売した。

昭和四年、両社の製造販売の統制機関として二巴(ふたば)合名会社が
生まれた。

エキシカ、ホスピンはこれまでどおり両社でそれぞれ製造、発売され、
名前も「エキホス」となった。大メーカーの間で協定が円満に行われた
珍しい例とされている。

〔二代塩野義三郎伝〕からの要約

9月12日(火)

天候・晴れ

八時半より西門堤防付近に於て眼鏡照準す。
陣地進入未だ初歩にて要領を得ず。

午後一時半より陣内戦斗一時間。非常に暑。
最後に密集教練を行ひ四時半終る。

夕食前、学科試験を行ふ。案外皆出来ぬ。

此の頃手紙を書こうと思へど、暇があつて暇の無い現在。
それに名文も出ぬのでペンを取るだけで書けぬ。
なんとか修養の道はないものか?・・・

9月13日(水)

天候・晴れ

午前中、馬運動。

午後、馬手入。補充兵も炎暑の中で暑いと思ふ。

北門東南角に行く所に大きな寺あり。始めて見に行く。

塗○にもこんな所があるとは知らなかった。
問○古剣術。

9月14日(木)

天候・晴れ

午前、クリーク地帯の戦闘。北門外ヲ塔に向って状況開始。

十時半迄に終り、それよりクリークヲ東に約千米上りて

榴弾爆発二ヶ。帰りは急行軍を○て帰隊。

午後二時より歩哨教育。白田班長出場されず。点呼後、前の班に学科。

腰接不良か腰が痛む。

9月15日(金)

天候・曇時々雨

朝非常に涼しくふっている。昨夜より小雨。

八時半より西門付近にて陣内戦。状況一回にて雨のため中止。

涼しくなったので今日より上衣を着て出場。

午後二時より射撃予行演習、後、夜間射撃。

大龍口の小川五郎君、○○少尉殿の傳令(伝令)のため来隊。

二三日後、南京兵團司令部に出張との事。晝、本部の○○川君より便りあり。

夕方、問○古体操。点呼後、班長殿の学科。

9月16日(土)

天候・曇時々雨

朝八時半より馬運動。自分は遠山に乗る。補充兵最初にて落馬する者多シ。

十一時より馬手入。終りて後、班内にて小川君と五目をやる。

晝より弟に便り出す。ペン習字の加盟に入る如く説き三人競争にて上達を計る。

夕食は班内に於て宴会。軍橋が今度軍の援後の本に立派な橋に架換になる

その祝いにビールが上る。夜る、二線警戒兵。

9月17日(日)

天候・曇

朝、小雨振り馬運動も出来ず、補充兵は手入に出る。

自分は班内に於て書簡を書く。小川五郎君、本日南京に向って出発す。

九時、厩廻番を一時間ほど交代。村瀬上卜等兵が公務の為。

晝、御賜の酒が渡る。皆有難く頂戴す。午後は皆外出すれ共、俺は班内

に於て手紙を書く。

妹と弟そして村瀬石之助氏へ〇〇を書く。犬山へも便りを書く。半ばにて終る。

夜、森准尉殿音頭にて軍歌演習。

9月18日(月)

天候・雨

相変わらず曇天。日朝点呼時、中隊長殿の学科あり。

満州事変〇発九周年記念は当時の様子に付き中隊長殿の訓〇あり。

八時半より銃床に於て射撃予行演習、十一時半終る。

午後は二時より中隊長殿の学科、作戦要ム会に就き四時頃より

白田軍曹殿の支那語に就きて。夕方二班に行き御賜品を入れる箱を造る。

点呼時迄で班内に於て離〇。明日、揚子江を侍従武官殿御通過の為沿岸

警備に出る告。

大橋付近へ。

9月19日(火)

天候・曇後晴れ

朝より小雨。八時より馬運動。

補充兵落馬甚シ。それでも大分上手に成って来た。

馬手入後、十時半整列して汽車輸送。大橋より行軍。

自分は兵四名をつれて路上斥候。小隊の前三百米を前進。

二時、大〇〇に到着。住民は比較的平穩。兵隊の顔を見て逃げる娘もあ

り哀れなり。
山上に登り揚子江上を警戒す。侍従官は三時頃、駆逐艦にて西通過遊ばさる。

無事大任を果し大〇〇を宣撫。午后五時大橋より自動車にて帰還す。夜、二中隊の連絡兵二名、宿る。

9月20日(水)

天候・曇後晴れ

朝馬運動。午前中馬手入。

今晚、夜間演習のタメ午後は休養。材料を集めて少し仮眠をとる。

便り書こうと思へど意の如くならず。六時半、整列して東獄神に行き夜間設備。

自分は兵一名と〇〇斥候に出る。戦斗の夜間行動は不気味だが演習は勇敢に高動画出来て面白い。

〇〇兵は攻撃、従事終り。帰舎して床に入るのが十一時半頃であった。

9月21日(木)

天候・晴れ

今日は自分の誕生日。第二十二年も終った。

昨夜、夜間演習ノタメ午前中武器、被服の手入。

朝八時起床。それより故郷に便り書く。

午後は馬運動。馬場に於て一時間程、そして塔の方向へ並足にて行く。

秋とは言へまだ暑い。山田が大龍口より連絡に来る。

夕方問〇古、体操、遊戯。今晚も電燈がつかぬ。点呼後早くねる。

今晚より蚊帳をつらぬ。涼しくなつて蚊も居ない。

9月22日(金)

天候・晴れ

八時、自分と大石と共感殿三人、早く五里脾に向つて出発。

最初の廟より状況開始。五里脾〇地に上り假設敵となる。

大隊本部の通信(無線)がいたので借りて聞いて見る。電話と同じ様に

聞へてくる、

実に驚かざるを得ん。十二時半帰隊。晝食後、御賜品を送る。

三時より補充兵は馬手入、自分へ行かぬ。夜、試験を実施。

一、第一〇反〇突撃二頓挫した場合、〇は如何にすべきや

二、射撃の間分隊長の件務

三、戦闘ノタメ前進、〇換を容易さらしむるには如何にすべきや

9月23日(土)

天候・晴れ

朝八時、勅列會で補充兵査閲も来月早く実施さる予定。

それで今朝は基本分隊教練。分隊長を一回やる。後密集教練。

午後は内務実施。今日は俸給が戴ける予定にて、珍らしき

アメ、南京豆、甘庶等、たらふく食ふ。夕方、事務室にて俸給を渡さる。

二十一〇恵〇〇義金に徴発さる。亀谷上卜兵、小丹陽より来隊。

9月24日(日)

天候・晴れ

朝、馬運動。挟虎に乗る。馬場に於て然し馬が張り切っている為

自分は駅方面に行く。〇教育の者は塔の方向に行く。

午后外出。学校付近に行くと、〇〇のクーニアンがいる

中公司の所にて約三十分四モ山の話。芝居があるので入る。皇軍は無

料。

言葉が通じなき為早く出る。帰り酒保にてカルピスを呑む。

そして山本慰安所にて二十分程ヒヤカス。それより支那ソバ食して帰隊。

外出中、中隊当番が四年兵を捜している。愈(いよいよ)明日蕪湖集結、

待つ日は来たのだ。〇ふ長い間の御奉公御苦勞様であった。

夜銃床に於いて送別会。第二次會は各班内に於いて酒二升、ビール一本

宛、

下〇品として渡る。皆んなこん気一ぱい呑んで踊って歌ふ。

自分も又其の中の一人。

日夕点呼は午后十時。四年兵は樂しき夢路で故郷を偲んでいるだろう。

9月25日(月)

天候・晴れ

愈、四年兵とも今日は別れねばならなくなった。

午前十時半、舎前に整列。中隊長殿挨拶、森准尉殿の答辞。

一同元氣一杯で駅に向ふ。駅に於ては大隊長殿の訓辞の後十一時の汽車にて

蕪湖に汽笛一声。皆んな別れを惜しみ、只感激で胸一ぱい。さらば四年兵殿さようなら。

今度合ふ日は何時の事。否、永久に合ぬだろう。

午後は馬運動、五里脾高地、廟のある方向に前進中、

鈴木一等兵落馬に依り大事。不省に陥る。

自分と小佐川班長と二人、医ム室に急を告げに走る。

走る走る、矢の如く。中隊より戦友の應援を得て〇〇修用に行く。

後の情報によれば生命には別状無いらしい。夕方第二中隊の四年兵を駅迄見送る。

七時半より宣撫班に於て中支派遣〇兵部、慰問演藝團来るに就き一同行く。

演藝は十時迄。実に面白かった。

第二中隊連絡兵、宿る。

9月26日(火)

天候・晴れ

八時半より検閲予行〇戦斗を西門堤防付近にて状況二回にて午前終る。

午後一時半より馬運動、馬場に於いて補充兵も大分上手に成った。

原君、假〇より連絡に来る。相変わらず朗らかな・・・

午後七時より問〇古、体操。

点呼後、原、服部、自分と三人で一ぱいやる。三浦いねさんより慰問袋戴く。

感激の外なし。十時より白田軍曹殿と巡察。河南各巡警哨。

長井実君より便りあり。彼も遂に入隊。〇〇十三連隊。

9月27日(水)

天候・晴れ、風あり

七時半、帰還兵駅通過に付き、見送に行く。秋風涼しく身にしむ。

もう少したてば此の風も寒くなるのだ。今は何をしても好シーズンだ。

九時より体操、剣術。午後一時半より馬運動。朝中隊長殿の訓辞あり。

四年兵帰還し愈と我らが中隊の中樞なるにより自重自奮して職務にあたれ。

夕、軍歌演習。色々物想して床に入る。

班の窓を新聞紙にて貼る。

9月28日(木)

天候・晴れ、風強し

朝の点呼に寒さを感じる。尤も風強き為。

八時より馬運動。守泉に乗る。十時よりコレラの子防注射あり。

午後は一時半より中隊長の学科、封支戦斗。支那軍の特色に就きて四時迄。

風強き為班内にホコリ吹込む事甚だし。補充兵を使役に出し舎前に水まきをさす。

大龍口の安○軍曹殿より電池代八十○戴。瓦○口蓋○の件、班長殿に申出る。

宮田○○○より便りあり。

9月29日(金)

天候・晴れ

第○回應用射撃、五里牌に於て午前九時より。大隊砲も実弾射撃六発。

晝食は中隊より持参。午后一服して離○目測。三時半帰隊す。

○軍、五名中隊に宿泊す。他に連絡兵三名。四班に投宿す。明日工務兵を

蕪湖に引率して行く事になった。点呼後、服部上卜兵と一ぱい、昨日のビールにて。

9月30日(土)

天候・晴れ

今日は千葉、大谷、銃剣術修行兵として蕪湖に分遣されるので

引率して行く。自動車にて八時三十分、太平出発。乗客多数、満員。

道中にも大○の乗客あり。之も宣撫の賜と嬉れしく思ふ。蕪湖到着十時。

獣医室に行き申告する。馬取○兵相変わらずの顔ブレ。然し俺は此所に来なかったのが

心嬉しと思ふ。皆んなこぼしている。上等兵連中の胸中、察するに余りあり？

獣医室に於て晝食を給○受ける。蕪湖にも野戦郵便局が出来ている。

伊○准尉殿より依頼を受けし貯金を実施したる後、第二福明に行く。

半島人も此の頃では日本人と大差ない。そして自分等も支那語が

学び得ない事はないと思ふ。用事終り四時の自動車にて帰隊。

俺の班の優秀な者二名、いないので淋しく感ず。

10月1日(日)

天候・晴れ

朝九時より馬運動。今朝より起床は午前七時となる。

晝より休養。外出許可あれど出ず。手紙を書く。家と永井実君と

滝下君に出す。役場に出す下書きをする。一時より一時間半程ピンポンをやる。

夜る中隊長室にて助手、四名に学科あり。検閲科目に就きて十時まで。御賜ノ菓子を頂く。

10月2日(月)

天候・晴れ

九時より検閲の基本分隊戦闘教練を実施。自分は分隊長をやる。中隊長殿見に来られる。

午後も一回実施。三時帰営す。四時より中隊長殿の学科あり。

封支戦斗法に就て約一時間半。点呼後、役場に出す手紙を書く。

服部上卜兵、伍長に進級す。神保一等兵、上卜兵に進級す。何れも十月一日付。

又、荒尾班長殿、曹長に進級さる。

10月3日(火)

天候・晴れ

九時より検閲の予行演習。

樺山、林少尉殿も見学に見へる。一同張り切っていたので午前一回にて終る。空砲使用。

午后休養。馬手入。自分は寝具一切、洗濯す。

点呼後、班長殿チェッコ機銃(九六式軽機関銃)に付て話あり。

亀谷班長来隊。愈、明日は検閲。過去一ヶ月間の辛苦の実が結ぶか？

西門横にて三時頃火事あり出動す。一家にて消止める。

10月4日(水)

天候・晴れ

愈、今日は待望の第二次補充兵の検閲。日頃の猛訓練が実が結ぶ時が来たのだ。

一同緊張して西門演習場に行く。八時四十五分、大隊長殿が見えたので演習開始。

分隊戦斗教練、約二十分にて終る。講評は元氣旺盛にて良好。次は大隊砲教練。

之も二十分にて良好な成績を修む。次は短剣術。元氣にて良好。次は密集教練。

自分は分隊長。共同一致の精神。充〇し前と同じく良好。十分休憩後、

中隊長、封支戦に就き、試問的に学科あり。無難にて終る。

全般を通じての講評も又、非常に良好〇と、過去四十日間の教育の賜にて

今日の成績が得られたのだと教官殿、班長殿と喜び合ふ。午后は休養。中隊長殿よりもおほめの言葉賜る。教官殿から祝にピール二本いたたく。夜、巡察に野田少尉殿と〇南に行く。九時半よりモ範小学校の横の芝居見物に行く。

面白いのでつひ十一時半頃まで見ている。そして帰営は十二時。ぐっすり眠る。

10月5日(木)

天候・晴れ

日朝点呼時、中隊長の学科あり。陸軍刑罰に就きて例を占され説明あり。点呼後、補充兵に学科あり、今後の指針を示さる。そして今日は慰労休暇を許さる。

朝、銃手入。日誌を整理新して班長殿に提出。晝に冬服及冬袴下等渡さる。又営内靴も。

一時半より外出。山本へ行き三十分程遊び、太平を一周して帰営。ガス口蓋弾の件、解消す。戦友はもつべきもの。

10月6日(金)

天候・晴れ

朝食後、馬運動。守泉に乗る。馬場にて約一時間半。

午後一時整列にて北門より五里脾北方の部落に宣撫行軍を実施。

未だ住民逃亡する者あり。銃分隊と機関銃分隊編成にて。自分は此の〇の分隊長。

午後五時、全員無事帰隊す。〇〇を得ず。本日上番の司令部工兵なれども

明日より厩週番の為取消となる。明七日は中隊兵器検査が実施さる予定。夜、大龍口連絡者三名ねる。郵便来る。

10月7日(土)

天候・雨時々曇

今日は兵器検査。起床と同時に機関銃手入。後小銃と晝前は非常に多忙。十二時迄に銃床に陳列を終る。厩週番、申受けをする。

魂馬三八。馬糧受領に本部へ五回通ふ。五分十一日迄。

上番厩当番、言橋安○増加、加我。夕食後、第四班より二班に編入になる。

消燈時巡察す。

10月8日(日)

天候・晴れ

一時間早く起きるのに大義な気持になる。点呼前に馬糧をはかる。

剣術専習員が点呼後、問○古を実施している。朝食後、馬運動。十七頭出場。

山田繁君等、大龍口より来る。自分は週番のため剣術に出られぬのは残念。

午后、皆外出す。假眠所にて山田上等兵と一時間程、雑談。

10月9日(月)

天候・晴れ

点呼前に馬糧をはかる。馬当番も中々精勤して呉れる。

起床当時、剣術専習員、問○古をしている。馬運動十九頭、出場。

伊○准尉殿が子供を一人、厩屋に下さる。三吉と名付ける。

午后も剣術の問○古をやっているので見学に行く。

午后五時、中隊長殿お呼びで行くと、名古屋の教員が慰問に来るから挨拶せよとの令。腹案を立てて見る。

「一言挨拶申し上げます。

只今は御懇切なる御慰問の言葉を賜はりまして誠に感謝感激致して居ります。

私共は出征以来10有年、無事に奉公の大任を全う致しましたのも、
○○○の大○の然らしむる所とは言へ銃後皆様の熱誠溢るる御後援の
賜と

常に感謝致しています。皆様が御無事で御帰還の上は、

今日の中國の状況をつぶさに御視察の上國民指導の中○として御○斗
あられん事を御願致しますと共に、私共も皆様の○誠に深く感謝致し益
て、

奮斗努力致す覚悟で御座います。何卒御帰りになりますになれば○○様
の兵隊は

此の通り元気澆洩として御奉公に邁進致している事を銃後の皆様に御
傳へ下さらん

事を御願ひ申し上げます。甚だ簡単にながら兵隊を代表致しまして
御礼の言葉にかふる○○であります。」

五時十分舎前に整列○して慰問を受く。挨拶は普通に出来たと思ふ。
中期兵、中々張り切る。そろそろ神様(?)が出来はじめた。

10月10日(火)

天候・晴れ

朝、金井班長、○引卒にて馬運動。午後は引馬運動。

夕方、保護兵、錬成隊より帰還す。二班へは三浦、塚田二名。

手紙来ている。妹との○○。察するところあり。

専習員相変わらず猛烈に訓練している。

夜、酒が上がる。少し呑んだだけにいい気持になる。

大隊砲に於て中期兵の連中さわぎしている。

10月11日(水)

天候・晴れ

朝、全員演習にて馬運動なし。何でも揺石方面へ下士官教育の使役にて。

午后二時より大隊本部に於て角力(すもう)競技あり中隊よりも多数出
場。

厩週番にては致方なし。午后、平凡に厩にて過す。

昨年 of 今晚、違〇に敵前上陸をした思い出深き夜なり。

夕方、全員馬手入れに整列さす。

10月12日(木)

天候・晴れ

朝、馬運動あり。

午後、剣術の試合あり自分も出場す。始めてなれ共、予期以上の成績でも練習が何よりと思ふ。流石が以前より練習している者は上手になっている。

点呼後、入浴。就寝す。

10月13日(金)

天候・晴れ

朝点呼後、又剣術の試合をやれとの事で出席す。十中六迄黒星。でも気が楽になる。

今日、鈴木少尉殿、蕪湖より出張との事で厩内外の清潔、整頓を実施す。晝より馬運動。十九頭出場す。午後、馬糧受領す。多き為明日に繰越す。

10月14日(土)

天候・雨

六時起床。まだ大変暗い。

今日は愈、週番下番だ。命に依り飼付を本日より四食飼とす。

朝よりの曇りが、八時頃より小雨となる。そして遂に本降りになる。

十二時、週番交代。三時より中隊長殿の使役、地図を貼り

中隊長殿病気のため、情報を読んでやる。そして(俺の)勉強にもなると思ふ。

10月15日(日)

天候・晴れ

小雨を破って八時より馬運動、後、馬手入れ。

午後休養。班内に自分一人。晝寝。三時より和田班長殿と四方八方話に○ける。
夕方、顔すり。後ピンポンを少しやる。写真○へ行って見れど出来ていない。
明日自警乗・・・南京まで。

10月16日(月)

天候・晴れ

今日は南京自動車警乗。

起床前に洗面終り点呼を待つ。七時四十分出発。

途中乗客多数、満員。南京に到着は十時半頃。最初師團司令部へ行き、公用書を渡し郵便局、千代○○等。晝食は日の丸食堂。

流石、首都だけに賑やかな。表だけは立派な家も中は爆撃の跡がある。

二時十分、太平に向って出発。帰りも乗客多数。五時太平着。

夜、大日本青年の中に

「日は高く、手は低く」

・・・眼前の利益に捉はれるな。即ち青年はよろしく明日を望め。

すなはち高き理想、大いなる理想(希望)の下にその修養を怠らないやうに

するとともに目前の任務の遂行に対しても最も忠実でなくてはならぬ。之が

「日は高く、手は低く」と言ふ事である。誠に意義深き言葉と思ふ。

10月17日(火)

天候・晴れ

八時半より馬運動。一時間半。

剣術専習員、本日十時三十分の汽車にて蕪湖に出発。一同の健闘を祈る・・・。

昼食早く出来ぬ為、皆食はずに出発す。大河内隊、○澤隊と共に十二時より、

将石方面へ肅正行軍に出動す。自分も整列したが人員の関係で出動せず。20

そして二時より藁を倉庫に入れる。銃手入、洗濯をする。

今日、司令部衛兵。最初の司令に服務す。歩哨○○○武夫歩哨、横山、丸山、山田である。

夕方、弟姉より便りあり。○れ班長よりも便りあり。

10月18日(水)

夜る、とうとう巡察がなくて済んだ。朝七時迄でぐっすり眠る。朝食後も又眠る。

昼より衛兵所○築終ったので移○する。窓が大きいので夏向だがこれからは寒いだろう。

剣術選手、試合の結果は三番との事。予想より悪かった。然し、勝敗は時の運。

全力を盡して頑張って呉れただけで結構と戦友ニ感謝す。

10月19日(木)

朝八時半より馬運動。吉繁に乗る。手入終りは十一時。

被服返納準備をする。十二時より宣蕪班へ慰問団が来たので参観。

去る九月二十五日来たのと同じ人員であった。でも如何見ても面白い。

夕方馬手入。妹より便りあり。他に庭女、四冊送ってくれる。

村瀬○○君より便りあり。彼は野戦砲兵とか。俺と同じく馬に縁があるな・・・。

十時より警戒兵に立哨。

10月20日(金)

天候・曇り

八時ヨリ対空監視哨兵として服務。二村、三博、言橋、三名。

午前中、子供二三人遊びニ来ル。風レ、寒サヲ感ジル様ニナリタリ。

夕方ヨリ小雨トナル。六時三十分引上グ。本日、万年筆、折○ス。惜シイ事ヲシタ。

10月21日(土)

天候・曇り

午前中、武器被服の手入。(夏被服返納) 班内全員ニテ個人兵器ノ手入実施。

午前十一時、週番下士官殿ヨリ明日鈴木一等兵退院のタメ蕪湖連絡ヲ命セラレ

十一時四十分ノ汽車ニテ蕪湖ニ出張ス。連絡終リ御木曹長殿ト〇〇の方に

オモツテ戴キ、朝日ニテ晝食ス。森二町ニテ面會、四時十分自動車ニテ太平帰隊ス。

小丹陽ヨリ馬九頭来ル。原一等兵、連絡ニ来ル。

10月22日(日)

天候・雨

朝手入。後剣術專習員が訓練シテイルノデ仲間ニ入り、実施ス。

剣術モヤハリ訓練ガ第一、ソシテ真剣ニヤレバ面白イモノデアル。

午后外出。山本ニテ遊ブ。三時帰隊。今日は俸給日、今月ハ貯金モ出来ソウニナイ。

夜ハ司令部衛兵、中隊長巡察ニ来ラル。異状ナシ。

10月23日(月)

天候・雨

昨夜、中隊長殿巡察ニ見ヘル。服務状態良好ノ御言葉ヲ賜ル。

十二時、金井軍曹殿巡察、異状ナシ。午前二時頃ヨリ非常ニ寒サヲ感ジル様ニナツタ。

二時ヨリ歩哨係ト交代シテ床ニ入ル。相変ラズ寒シ。妹ニ便り書く。ハガキ一枚。

朝モ相変ラズ雨が降ッテイル。今日ハ靖國神社〇時大祭ニテ午后皆外出シテイル。

服ム中、陸軍〇式、及、つはものヲ読ム。勉強もヤリ始メレバ面白イガ、少しヤラヌト手ガツカヌ。後五ヶ月モアル、ミツチリヤツテ見ル覚悟。

10月25日(水)

天候・晴れ

愈、本日より向ふ四日間第一次秋季討伐開始さる。自分は四番射手にて参加。

今度の討伐は大官坪一帯の肅正、宣撫宣傳が目的との事。

午前七時、大橋西方二軒迄、自動車。それより行軍。宣撫班、憲兵等も来ている。

女の宣撫班員一名、人目に入る。官東門、東頭門、龍山橋、約五里。宣撫行軍実施。○○を得ず。夜るは太平に帰隊す。

12月7日

午后二時、東村 村長

岐阜県長村長會代表慰問使トシて和田清右エ門氏來隊さる。

自分ハ中隊ヲ代表致して挨拶す。挨拶概要左ノ如し。

一言御挨拶申し上げます。

只今は御懇切なる御慰問の言葉を賜りまして私共一同強く感謝致して居ります。

私共は郷里を皆々様の歓呼の声に送られて征○に上がりましてより早くも

一年有余は夢の間に過ぎ去りました。其の間大か無く無事奉公の大任を全うし得ました事は之一重に上、一天○○○○の然らしむる所とは言へども

銃後皆々様ノ熱誠溢るるの御○援、即ちあのいたいけない小学児童ノ慰問文、

或は各○団体の慰問袋○、又、御佛への御祈頭等、聴しにつけ見るにつ

け私共は如何程鞭撻された事か存じません。

又、本日ははるばる此の異郷の僻地まで御慰問に来て下さいまして、私共一同

何と御礼申し上げてよいか、其の言葉も無い様な次第であります。

どうぞ御帰りになられた〇は、戦地の吾々は此の通り益々元氣、澆瀨として御奉公の途に慢心している事を銃後の皆様様に御傳え下さらん事を御願致します。

甚だ簡単ではありますが一言、一同に変わりました御礼の言葉にかふる次第であります。

掲載者 稲葉秀章

岐阜県郡上市白鳥町恩地五三五の三

Mail

h-inaba@gujo-tv.ne.jp